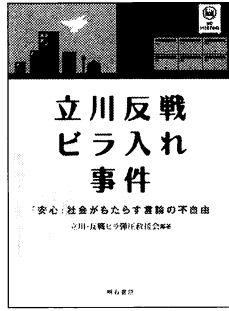


ありがとうございます
——お送りいただいた書籍——

次のような出版物を、会員の方や友誼団体などからご寄贈いただきました。ありがとうございます。

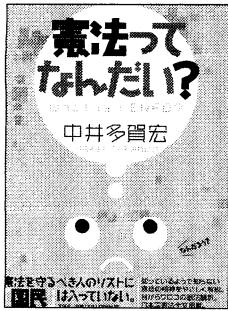
○立川・反戦ビラ弾圧救援会編著『立川反戦ビラ入れ事件——「安心」社会がもたらす言論の不自由』 明石書店 一八〇〇円。



○なお、この本とほぼ同時に、宗像充著『街から反戦の声が消えるとき——立川反戦ビラ入

れ弾圧事件』（樹心社）も刊行されており、本紙次号にこの二冊の紹介文を掲載する予定です。

○中井多賀宏著『憲法ってなんだい？』 文芸社 一二〇〇円。日本国憲法の最高理念は個人の尊重



(第十三条)にあるという立場から、憲法とは何かを易しく解説したものの、著者、

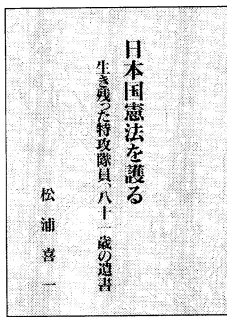
中井さんは、本誌86号に掲載された「やさしいひとへ——高遠菜穂子さんに贈った詩」の作者の詩人。本書のほかにも、中井さんからは、詩集『朝から晩まで』（碧天舎 一〇〇〇円）と小説集『自由の排泄物』（新風舎 一二〇〇円）もいただきました。

○九条・平和詩集 『守ろう！平和憲法 戦争は、忘れない』 「九条・平和詩集」の会発行 一〇〇〇円。「九条の会」のアピールに賛同した犬塚昭夫さんら一九人の詩



人の呼びかけで集められた五六人からの六

一編の反戦詩集。第二集も予定しているという。(連絡先 〓 590-0018 堺市今池町六丁六の九異郷社内)
○松浦喜一著『日本国憲法を護る——生き残った特攻隊員、八十一歳の遺書』(私家版) 『昭和は遠く——生き残った特攻隊員の遺書』(二九九四年、径書房)の著者が、現在の改憲への動きを憂え、人びとに訴えかける書。(連絡先 〓 106-0045 東京都港区麻布十番一



の八の一〇 松浦喜一

Information (2)

(32ページからつづく)

7月2日(土) 13:30~「今、韓国・北朝鮮の人々とながらるために、私たちができること 戦争を考える〈シリーズ21〉」 場所：東京・国分寺労政会館 講師：太田昌国〈民族問題研究〉、チョウ・ミス〈ピースボート共同代表〉 資料代：500円 主催：うちなんちゅの怒りとともに！三多摩市民の会 (連絡先電話：0436-74-2111 古荘方)

日付不定 「ありうる不測の事態に備えて」 自衛隊員がイラクで殺し、殺された時(あるいはそれに準じた問題が起こった場合)の行動。

□全国一斉行動 ●その直後の日曜日→地域での行動・集会●次週の土曜日→全国集会

□特に東京では ●その日(日本時間の15時までなら、その日の18時から衆議院第2議員会館前集合、それ以降なら翌日18時から衆議院第2議員会館前集合) 連続3日→首相官邸への抗議行動→座り込みなど 呼びかけ：WORLD PEACE NOW (この行動が始まったら、この件の問合せ：070-5212-0275)

毎週土曜日 18:00~19:00 新宿西口地下広場での反戦意思表示行動が続いています。

また、毎週月曜日 18:30~の辺野古へのポリング調査を許すな！防衛庁抗議行動 場所：東京、防衛庁前も続いています。(電話：090-3910-4140)